

地域に広がるGAPの取り組み

～空知管内のGAP推進に向けて～

1. 活動の背景

空知管内におけるGAP推進の目的

食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に関する取り組みを農場が行うことで、持続可能な農業生産とより良い農業経営の実現をめざす。

～ステップ1～ GAPの学習支援

<対象>

- ・GAPに関心のある農業者
- ・JA営農指導員
- ・農業系高校の生徒 等

～ステップ2～ GAPの実践支援

<対象>

- ・認証はとらないがGAPに取り組んでみたい農業者

～ステップ3～ GAP認証取得の支援

<対象>

- ・GAP認証を取得したい農業者

地域係の担当者を窓口、地域係からの要請を受けて広域主査が支援

2. 活動の経過と成果の具体的内容

～ステップ1～GAPの学習支援

○座学研修や視察研修の開催を支援

実施日	対象	人数	支援内容
R3年7月20日	JA営農指導員	19名	座学研修・視察
9月27日	美唄尚栄高等学校	13名	座学研修
10月18日	新十津川農業高等学校	27名	座学研修・視察



座学研修（美唄尚栄高校）



GAP認証農場（芦別市きらきらぼし生産組合GAP部会）視察
新十津川農業高校3年



座学研修（新十津川農業高校2年）

～ステップ2～GAPの実践支援

○地域係の働きかけで2戸が実践を希望。地域係と一緒にGAPの5つの視点「食品安全」「労働安全」「環境保全」「人権保護」「農場経営管理」から農場を点検し改善箇所を提案した。改善された農場を見た近隣の1戸がさらに希望し、現在3戸での取り組みとなっている。

支援戸数	支援回数	主な支援内容
3農場 （芦別市）	8回	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPの必要性と目的についての理解支援 ・農場での最優先取り組み項目の検討 ・食品安全等に配慮した作業環境の整備支援

同じ地域で認証をとった「芦別市きらきらぼし生産組合GAP部会」の事例を紹介し、関心高まる。

GAP実践農家による改善事例

【目的】 食品安全の向上と作業効率改善

【主な取り組み内容】 食品安全の視点で、米の乾燥施設を始めとした倉庫内の物の配置を改善
 ~Before~ **取り組み前の米の乾燥施設内**



農産物を取り扱う施設に農薬やオイル類があり、食品安全面でのリスクとなるため、農薬やオイル類の置き場所を見直す。また工具類を整理整頓して使いやすくする。

~After~ **取り組み後の乾燥施設内と倉庫**



「農薬関係は特に
やっつよかった！」



実践農家さん

- ・ 工具類は使用頻度ごとに分けて保管し、不要な物は廃棄。
- ・ 農薬やオイル類は、別の倉庫に移動し、倉庫内で置き場所を決めた。
- ・ 農産物を取り扱う施設内には汚染リスクとなる物（農薬やオイル等）を置かない。

~ステップ3~GAP認証取得の支援

○地域系の要請を受け、玄米でJGAP団体認証を取得している「芦別市きらきらぼし生産組合GAP部会（以下、GAP部会）」の更新審査と新規にJGAP個別認証（穀物：もち玄米）の取得を希望する芦別市の中核法人「(有)加藤農場」を支援。



GAP部会の更新審査（7月）



(有)加藤農場の初回審査（7月）

GAP部会は無事にJGAP
団体認証を更新！
加藤農場も8月にJGAP
個別認証を取得！

※普及センター作成「JGAP
団体認証支援の手引き」(R
3年3月発行)を活用

芦別市では、GAP部会の認証取得（令和2年3月）をきっかけにGAPへの関心が高まり、普及センター地域係やJAがさらに推進したことで、GAP実践や認証取得の動きが広がっている。

芦別市におけるGAP支援戸数

	R2	R3
JGAP個別認証	0	1戸
JGAP団体認証	1団体(4戸)	1団体(4戸)
GAP実践農家	0	3戸

3. 今後の課題と対応

■空知管内の更なるGAP推進に向けて

- ・ 「取り組んでよかった」という農業者の声や取り組み事例の発信
- ・ 農業者のニーズに対応して効果的な支援を行うための関係機関との連携や役割分担